

2013年6月【カイビガン】通信 No.04

-フィリピンに於ける貧困削減への挑戦-



2013年（平成25年）6月6日から10日の間、1年3か月ぶりにバタンガスのサイトへ出かけてきました。今回の主な活動予定は以下の通りでした。

1. タール湖でのテラピア養殖事業の立ち上げ
2. 縫製工房とスクールユニホーム作成事業の立ち上げ
3. 奨学基金の状況と支援の拡大計画
4. その他 では一つずつ報告しましょう。

1. テラピア養殖事業の立ち上げ

- 1) 事業の背景：①20数年前、タール湖で韓国・中国の業者が大規模のテラピア養殖を始めた。②4～5年前に拡大する養殖事業で湖の汚染や酸欠状態になるなどテラピア養殖に対してフィリピン政府が外国業者への事業停止を勧告した。③しかし、外国人投資家の投入資金をフィリピン人経営者に委託（後方制御）して事業は継続されている。④台風による養殖施設のダメージや火山湖特有の大きな水温変化という



大きなリスクを背負って、地元の人々は養殖事業に手を出さず、日雇いの雇用に甘んじている。現状の村落の雇用機会が生活困窮者が増大しており、生活向上支援が緊急の課題である。(2年前の状況)

- 2) 目標：10人以上の定常雇用とそれに扶養される70~100人の生計向上
- 3) 今回の活動：ウイルマさんとの情報交換にて、韓国・中国による後方制御によるテラピア養殖の勢いは衰えていない。今では、これ以上の事業参入認可に政府が消極的だということが明らかになった。

また、現在村人の主な現金収入であるテラピア養殖用の竹製筏造り(写真)も警察の目を掻い潜って行われている。このニュースだけで私のモチベーションは一気に下降した。計画している活動の優先や見直しに頭を切り替えよう。



- 4) 今後の課題や取組：私たちが事業を開始するにも政府への手続きが困難な状況にあり、湖の汚染も考慮すると活動をしばらく止めて状況を観察することとした。

2. 縫製工房とスクールユニホーム作成事業の立ち上げ

- 1) 事業の背景：私たちが活動する田舎では児童・学生用の制服がS/M/Lサイズのように既製服として販売されず、親が布地を購入して仕立てに出している。資本金の準備と在庫を抱えるリスクを覚悟で村人雇用による生計向上が出来ないものか。
- 2) 目標：3名の雇用と見習い訓練の運営
- 3) 今回の活動：都市部大型スーパーでの制服価格調査、ミシンの価格調査。
写真のような児童用の制服は100ペソ(¥250)~300ペソ(¥750)で販売されている。一方縫製用ミシンはそれ頃ピンからキリまでで、私たちの活動には停電にも支障のない足踏みミシン7,000ペソ(¥17,500)程度が妥当かと思われる。このミシンにモーターを追加取付も可能で工事費込みで700ペソの追加で済む。

- 4) 今後の予定：①マニラにて縫製作業に従事した経験のある主婦(候補者あり)を中心に1台のミシンと素材、作業場を用意する(確保済み)。②来年の6月に販売する制服を作成し始める。完成した製品は、この地域で来年入学予定の貧しい家庭の子どもたちにプレゼントする予定。④運営資金の試算と贈呈対象者の調査を始める。⑤その結果を見て、日本人ドナーを探して運営資金協力を募る。



3. 奨学基金の状況と支援の拡大計画

- 1) 事業の背景：今回のフィリピン滞在時に、私が勤務していた政府機関での汚職事件が話題に上がった。親しかった元同僚が定年をまじかにして解雇された。3月にはウィルマさんの長兄が親友と酒を飲んで歓談している時、ドロ酔いの知人と口論になって、親友と共に射殺されるという悲しい事件もあった。こんな話は昔からの日常茶飯事のフィリピンだ。フィリピンの将来を想うなら次世代の人材育成（教育）が重要なテーマになる。特に幼児期のモラル教育（三つ子の魂百までも・・・）が大きく影響する。
- 2) 目標：貧しいこの地域の家庭に育った就学前の子どもたちを対象に、託児所や幼稚園を運営し、あいさつやモラルの大切さを教え、絵本の図書ブースや語り聞かせ、集団での協調性や責任感の醸成、学習意欲の向上を促したい。同時に、まじめで学籍優秀な児童を次代のリーダーに育てるべく奨学基金制度を立ち上げる。
- 3) 今回の活動：ウィルマさんとビジョンを語り合った。これまで支援してきた児童への学費支援や高校生の通学費支援を継続するとともに、ウィルマさんの親族からジョシュワ君（13歳）とカイラちゃん（12歳）を、大学（18歳から）での就学を支援することを決めた。当面の資金として10万円を基金に追加した。
- 4) 今後の予定：幼稚園児の対象地域の決定と対象者調査、教師の雇用、カリキュラム、教材、運営理念、授業料の無料化と運営費捻出など、5～10年以内に実現させたい。

4. その他：ホテルやレストランの経営（草案）

- 1) 事業の背景：シーズンになればコテージの前の道路を多くの人が、水泳などの目的で行き交う。この人たちをターゲットにホテルやレストランが出来ないものか？
- 2) 目標：竹のコテージに静かさやプライベートな時間を提供できるホテルやレストランの経営で村人の雇用促進。
- 3) 今回の活動：ウィルマさんとビジョンを語り合い、未開の土地調査と開発案作成。とりあえず、人を雇って下草の除去を始める。ヤギを2頭ほど飼って、除草と畜産ビジネスの可能性を調査することを決定。写真はウィルマさんが保有する未開の土地。



- 4) 今後の予定：最初は日本人や地元の人たちをターゲットに細々と営業して経験を積む必要があるし、スタッフ人材の育成にも時間が必要。花壇を増やし、未開発地域の環境整備と土地の有効活用計画などビジョン形成。同時に、湖畔の環境整備、サイトの近くにあるフィリピン最古の教会跡地の環境整備など集客につながる活動。